

## ◇思い出のメーデー

## 大槻伸次

風香る5月、1年で最も躍動的なこの季節に思い出されるのは5月の飛び石連休とメーデーだろう。当時、4月末の天皇誕生日から、5月5日の子どもの日まで（土曜日含）休日が飛び石のようにやってくるのは嬉しさ百倍であったが、長期の旅行等を計画するには無理があった。そこで、会社と労組双方においてこの飛び石連休を連休として取得できないかという研究が始まった。ところが、連休とするは日数不足でその不足分は年間の休日の中から充足しようという画期的なものだったのである。

しかし、自分たちの所属する生産技術課では、工場が停止する連休は設備の更新や保全にはまたとない機会だったから、予定通りに休みを取れないという辛さはあった。

三菱労組は5月1日に開催される太田地区統一メーデーは全員参加が基本で、休日出勤は避けメーデーに参加するよう促された。自分としては昭和38年9月21日に本採用（同時に組合に加入）となった関係から、翌年の昭和39年5月1日のメーデーが初参加となった。この年は太田駅北口が会場で、翌年のメーデーからは駅南口に変更となった。会場の駅前広場の中央には満艦飾に飾られたトラックの荷台が演説台として設えられ、対するようメーデー参加の組合旗が一行に並び、その後には労組組合員が広場を所狭しと埋めた。そして色とりどり組合旗はでひらひらと5月の風に舞った。式典が始まると、太田地区労組幹部らの挨拶が大型拡声器にのって延々と続くのである。ところが、ほとんどの人たちがお祭り気分ですれすれで挨拶などそっこのけで雑談の花が咲いたのである。

我々にとって大事なことはメーデー解散後、何処に行こうかとの相談だったのである。なかには彼女と春スキーへ行く予定で、式の終わりが待ちきれない人もいた。延々と続いた式典の後には、終着の呑龍様までデモ行進である。ゆっくりと太田市街を歩きシュプレヒコールを上げながら呑龍様に辿り着き解散となる。自身の初参加である昭和39年のスローガンは、物価値上げハンターーい！大幅賃上げカクトクーー！と連呼しながらの行進で呑龍様へ辿り着き参加賞を貰っての解散だった。昭和40年のメーデーは、むせ返るほどの好日で呑龍様での解散後、数人で水道山へ移動しダンスの催しに参加した。その後、高山神社境内の小さな喫茶店に立ち寄り暫らくの雑談に花が咲いた。その後太田駅まで銀ブラし解散となったが日暮れていた。

その後しばらくは太田駅南口がメーデー会場だったが、時代が下ると浜町の天神公園に変更となりデモ行進もなくなり大型抽選会が行われるようになった。

しかし、どういうわけかほとんどの人が当たる籤なのに決まって自身は何も当たらず大落胆する。ところが、k氏は夫婦で参加し2人して毎年のように大型商品を当てていた。自身はどうしてこんなに籤運がないのかなとしょ気ってしまった。

結婚後、メーデー終了後は決まって実家に立ち寄り母のご機嫌伺いをした。何時のメーデーだったか母がこんな事を云ったのを覚えている。こんないい日に家にいるのは勿体無い、母ちゃんは飽きちゃったと独言を言っていた。何処か行きたい様子はすぐく解ったが、連休中は出勤予定なので母の思いを聞いてやれなかったのは悔まれた。